

診療放射線部だより Vol. 7

副診療放射線技師長 小濱 義幸

診療放射線技師の診療補助業務は、CT・MRI・X線撮影など放射線画像検査と高エネルギー放射線を利用してがん細胞に照射を行う放射線治療があります。

今回、放射線治療について紹介します。

当院は県央地区がんセンターとして放射線治療に注力しており、リニアック2台(Varian社、Elekta社)とRALS装置1台(Nucletron社)を保有しています。リニアックは緩和治療から高精度放射線治療(ピンポイントで線量を集中させる定位治療、放射線に強弱をつける強度変調放射線治療(IMRT)、CT画像等で正確に位置照合し照射する

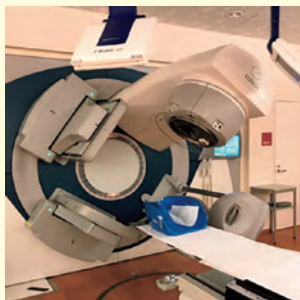
画像誘導放射線治療(IGRT))を提供しており、2023年度実績で422人に治療を実施しました。RALS(遠隔操作密封小線源治療)装置では、子宮がんに対して腔内照射と組織内照射、ハイブリッド照射(腔内と組織内の併用)を2023年度実績で29人に治療を実施しました。RALSでは画像誘導小線源治療(IGBT)を導入し、長崎県内でも最も多くの治療人数を誇ります。

これからも、放射線治療医、看護師(放射線看護専門看護師)と密に連携し、患者さんと真摯に向き合い、最適な放射線治療を提供できるよう研鑽してまいります。

当院の放射線治療装置



リニアック (Varian社)



リニアック (Elekta社)

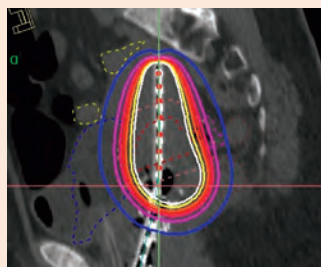


RALS装置 (Nucletron社)

放射治療一例



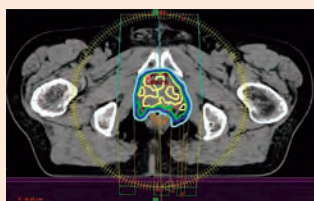
子宮頸がんRALS治療前



RALS治療計画



治療後



前立腺がん IMRT(前立腺に線量を集中させ、直腸線量を低減させている)

